日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

1◎巻頭言
2◎中央研修会のご案内/
3◎研修委員会//学会誌作成委員会//広報委員会//
4◎ガイダンスカウンセラー関連情報//認定委員会//
5◎先輩に聞く
6◎【大分県支部】－支部活動報告－
7◎第31回総会・研究大会（宮城大会）を終えて//
　災害被災者支援委員会報告
8◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第60号

巻頭言　私と教育相談

―指導、支援、ケアと「チーム学校」を考える―

副会長　春日井敏之

私が中学校の教師になった頃（1970年代）、学校には「指導」という言葉しかありませんでした。阪神淡路大震災の頃（1990年代）、学校では「支援」という言葉が使われるようになりました。東日本大震災の頃（2010年代）、学校では「ケア」という言葉も使われるようになりました。この変化は、社会的な出来事と合わせて、生徒指導担当教員の加配、スクールカウンセラーの配置、スクールソーシャルワーカーの配置の時期とも連動しています。

指導は、教師が子どものために良かれと考え、集団を主たる対象にして、学校生活や教科指導などにおいて、「守りの枠」を設定して働きかける教育的営みです。支援は、主として子ども個人を対象にして、子どもに合った「守りの枠」を一緒に考えていく教育的営みです。ケアは、子どもだけではなく保護者、家族も対象にしながら、福祉的視点も含めた「守りの枠」を一緒に考えていく教育的営みです。

この時の「守りの枠」とは、「子どものいのち、権利、利益」を守ることが目的であり、子どもの権利条約がベースにあります。学校や家庭の評価、体裁を守るための枠ではなく、子どもにとっての最善の利益を守るという理念の共有が、「チーム学校」が機能するためには重要なのです。その担い手は、一人のスーパーマンのような教師ではなく、教師集団、および学校内外の多職種の専門家との連携に広がってきました。同時に、子どもたちも「チーム学校」の重要な担い手であることを忘れないで、その力を借りていく必要があります。

その一方では、学校における「指導死」、家庭における「教育虐待」といった言葉が生まれ、教師や保護者が考えた枠に子どもを無理にはめ込もうとして、そのいのちまでも奪ってしまうような事態が発生しています。今年の第31回総会・研究大会（宮城大会）の全体会シンポジウムにおいて、福島県大熊町の前教育長武内敏英先生は、「教育とは、人間を育てることであり、人間は関係性の中で生きている」と述べ

られ、自己責任論の間違いと子どもの権利条約の重要性を指摘されました。

本学会ではこれまでに、「教育相談を軸にした生徒指導の展開」を強調してきました。これは、支援やケアを大切にした双方向の指導のあり方を模索するプロセスであり、子どもに働きかけることによって、子どもから働きかけられ、子どもと教師が一緒に成長していくプロセスでもあります。その際に大切なことは、子どもによりそうという教師や専門家の姿勢です。子どもによりそうとは、「子どもの生活、感情、願いを一緒に居て、看て、聴いて、感じて、考えて、まるごと受けとめようとする姿勢」ではないかと考えています。

中央研修会のご案内

一般社団法人日本学校教育相談学会，第 30 回中央研修会は，令和２年（2020 年）１月 11 日（土），12 日（日）の二日間，例年どおり東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に実施されます。

今回も３つのプレ講座と７つのコース別講座を御用意しました。また，今回はシンポジウムに代わるものとして，新しい試みですが，鼎談をご用意しています。３人の演者に教育とその関連領域について，そして学校教育相談について，できればフロアも交えて，自由に語り議論していただければと考えています。

その鼎談の演者も含めて，まだ講師等が確定していない講座もありますが，確定次第ホームページ等でお知らせいたしますので，ご了解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

今年度の中央研修会もどうぞご期待ください。内容は以下のとおりです。

【プレ講座】１月 11 日（土）13：00～

①「教育相談コーディネーターがつくるチーム学校」

②「スクールソーシャルワーカーの仕事と教育相談」

③「ボディワーク」

【鼎談】１月 11 日（土）15：00～

「教育の新しい風に学ぶ，教育の未来をつくる」

＜出演者＞

和歌山県精神保健福祉センター：小野善郎

日本福祉大学：野尻紀恵（交渉中）

本学会会長：栗原慎二

【コース別講座】１月 12 日（日）

9：30～15：30

①「ネット・ゲーム依存のメカニズムと学校・家庭が果たす役割」

講師は現在，独立行政法人国立病院機構久里浜医療センターと交渉中です。

②「ケースフォーミュレーションを学ぶ」

講師：立教女学院中学・高等学校　保坂一己

③「ＧＲＩＰに学ぶ自殺予防教育」

講師：新潟県立大学　勝又陽太郎

④「実行機能の支援の実際」

講師：NPO フトゥーロ LD 発達相談センター

かながわ　安住ゆう子

⑤「不登校・ひきこもり問題への対応」

講師：東京電機大学　前野康男

⑥「ダイバーシティ～多文化共生を教育相談に活かす」

講師：群馬大学　結城恵

⑦「論文作成のポイント―研究論文・実践論文を対象に―」

講師：長崎外国語大学　藤原和政

なお，それぞれの講座の具体的内容については，第 30 回中央研修会の開催案内でご確認ください。また，内容と講師につきましては，事情により変更となる場合もありますのでご了解いただければ幸いです。

研修委員一同，多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。これらの研修が，みなさまの日々の活動のお役に立てればと願いつつ，来年のお正月に東京でお会いできますことを楽しみにしております。

（文責：研修委員長　田邊 昭雄）

研修委員会

研修委員会は，現在，８月の全国大会時のワークショップと１月の中央研修会を中心に，会員の皆様により良い研修の機会を提供するべく活動しています。

今年８月の総会において，渡辺正雄前委員長（東京都支部）から，田邊昭雄（千葉県支部）が委員長を引き継ぎました。渡辺委員長同様どうぞよろしくお願いいたします。

さて，学校教育相談の研修にとって，より良い研修とは何でしょうか？委員会では，様々な分野からの検討を行いながら，研修内容並びに講師について，常に不易と流行を念頭に置いて委員会で検討を重ねたうえで，選定を行い交渉にあたっています。

なお，今まで認定委員会で行ってきたスーパーバイザーの研究会については，次年度以降，同趣旨の研修を認定員会から研修委員会が業務として，引き継ぐことになりました。現在のところ，新たな研修機会を設定するのではなく，今までの年２回のワークショップと中央研修会の中で，講座として対応していく方向で考えています。今後，方向性がはっきりした段階で，会員の皆様に早期にお知らせできるようにしたいと思います。

今後とも研修委員会の活動にみなさまのご協力をお願いいたします。

（文責：研修委員長　田邊 昭雄）

学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては，日頃より学会誌作成委員会の活動にご理解とご支援を賜りありがとうございます。去る８月の総会（仙台大会）で承認され，委員長の職を仰せつかりました。どうぞよろしくお願いいたします。

学会誌への投稿論文の審査は、９名の委員のほか審査協力委員として多くの方にご協力をいただいております。協力委員のお名前は、学会誌の巻末に掲載しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

学会誌『学校教育相談研究』への投稿は、毎年８月末（８月の全国大会での発表者は10月末）が締切となっています。現在，学会誌第30号への投稿論文の審査を行っておりますが，投稿本数は 20 数本になると思います。12 月の学会誌作成委員会において、掲載にかかわる判定を行い、学会誌が会員の皆様のお手元に届くのは来年６月頃になります。

学会誌の審査は「審査に関するガイドライン」にお示しした手順で行われます。投稿された皆様は、結果をお知らせするまで今しばらくお待ちください。

また、多くの皆様が今後も論文作成、投稿をしてくださるようお願いいたします。その際、「論文作成の手引き」を参考にしていただければ幸いです。なお、「投稿規定」「審査に関するガイドライン」「論文作成の手引き」は、学会誌に掲載しております。さらに、毎年１月の中央研修会と８月の全国大会ワークショップで行っている論文作成講座もご活用ください。

（文責：学会誌作成委員長　藤井 和郎）

広報委員会

本年８月、第31回総会（宮城大会）で新役員が承認され、本委員会も、委員長が佐藤敏彦先生（埼玉県支部）から私、山本健治に替わりました。佐藤先生にはこれまで長きに渡り広報委員としてご尽力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

今回、広報委員としてはじめてこれまで届けられた会報の数々を読み直したとき、これまでの広報委員の皆様が努力を重ね創意工夫のある紙面作りに励んでこられたことに改めて気づかせていただきました。こうした先輩方の実績を大切に引き継ぎつつ、更なる魅力ある会報作りに努めてまいりたいと思います。

新しい広報委員には委員長の交代以外はすべて再任をお願いしました。ベテラン揃いのスタッフで心強く感じております。１年間よろしくお願いします。

委 員 長：山本健治（奈良県支部）
副委員長：小川正人（栃木県支部）
委　　員：望月保美（東京都支部）
　　藤浪直紀（栃木県支部）
　　坂本高英（大阪府支部）
協力委員：吉野竜太（大阪府支部）

今後、会報の編集にあたって、多くの皆様のご協力をお願いすることになりますが、その節はどうかよろしくお願いします。

（文責：広報委員長　山本 健治）

ガイダンスカウンセラー関連情報

2018年８月から、新しい形のガイダンスカウンセラー実践が始まっています。文科省からの協力依頼（2018年２月）→都教委主任指導主事からの｛SNS相談事業｝でガイダンスカウンセラーの実績を示してほしい（2018.2.26の提案）という流れの中で、一般財団法人全国SNSカウンセリング協議会という組織に日本スクールカウンセリング推進協議会も加入（2018年５月）しました。[平成30年度の東京都教育委員会「SNSによる教育相談」（８月25日（土曜日）から９月７日（金曜日）の午後５時から午後９時まで）に，当協議会から８名のガイダンスカウンセラーを派遣した結果、今後もこの分野は広がっていくだろうという予測をしました。SNS相談事業に参加するためには、SNSカウンセラーとして必要な知識・技能を身につける必要があります。当協議会主催の第1回SNSカウンセラー研修会（６／30）及び第2回研修会（７/21）を修了した24名の方が一般財団法人全国SNSカウンセリング協議会認定のSNSカウンセラー資格を取得しました。今年の夏も首都圏の自治体が主催する「SNSカウンセリング事業」に数名の方がエントリーして活躍しました。

東京都以外の地域におけるSNSカウンセラー研修会・資格取得に向けての計画については、ご希望により検討いたしますので当協議会事務局までご一報ください。

（文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事　日本学校教育相談学会名誉会員・ガイダンスカウンセラー　加勇田修士）

認定委員会

青木美穂子委員長の後任の簗瀬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この度、委員会の業務内容の見直しが図られ、これまで本委員会が開催してきました研究会は研修委員会に移ります。前会報でお伝えした 2019 年度研究会のお知らせはお詫びして取消しさせていただきます。今後は研修委員会からのご案内等をご確認ください。

また、学校カウンセラーの登録料、更新料が今年度から引下げられましたのでお知らせします。審査料に変更はありません。

	改定前	**改訂後**	＊審査料
(新規)登録料	30,000 円	**10,000 円**	20,000 円
(更新)更新料	20,000 円	**10,000 円**	10,000 円

今年度の学校カウンセラーの新規の認定申請期限は過ぎておりますが、**更新の申請期限は 12 月 20 日**です。未だ手続きがお済みでない方は期限までにお願いします。

さらに、今年度は学校カウンセラースーパーバイザーの最初の更新年度です。各支部推薦による認定で平成 27 年４月にスーパーバイザーとして登録された皆様に御案内しておりますので、**10 月 25 日まで**に手続きをお願いします。**スーパーバイザーとして更新されますと同時に学校カウンセラー資格も更新されます**ので、両方を更新する必要はありません。ただし、スーパーバイザーを更新されない場合は、学校カウンセラーの資格更新をする必要がありますのでご留意ください。

なお、今後、新規のスーパーバイザーは支部推薦ではなく、個人の申請による書類審査・面接を経て認定していく予定です。申請様式等が決定次第、ご案内します。

（文責：認定委員長　簗瀬のり子）

先輩に聞く
「私と教育相談」
名誉会員　前会長
嶋崎　政男

今回は、前会長で名誉会員の嶋崎政男先生に「私と教育相談」について書いて頂きました。

日本学校教育相談学会の「礎」

本学会の誕生は平成２（1990）年。全国教育研究所連盟に加盟している教育研究所の指導主事・教師を中心に、「学校教育相談の実践を通して、研究・研修等を行い、会員相互の資質の向上と、学校教育相談の普及・充実を図る」ことをコンセプトに発足しました。

初代会長小泉英二先生は、「すべての教師が教育相談の考え方（カウンセリングマインド）をもって、予防的・開発的な教育相談を推進すること」を訴えました。この考え方は本学会の一貫した流れの「清冽な源流の一滴」として脈々と受け継がれています。

「実践を通した理論の構築」という本会の理念は、毎年開催される研究大会・中央研修会で着実に結実していきましたが、それを力強く支えたのが支部での活動でした。それぞれの支部では傑出したリーダーの下、優れた実践・研究が積み重ねられていったのです。

日本学校教育相談学会の「輝」

本会の英訳は、「The Japanese Association of School Counseling And Guidance」です。

当初からカウンセリングとガイダンスの意義を同等に位置付け、臨床活動一辺倒になりがちな教育相談の在り方を包括的に考えていました。新学習指導要領「総則」にはカウンセリングとガイダンスの重要性が明確に位置付けられています。草創期の諸先輩方の「先見の明」には頭が下がる思いで一杯です。

この一貫した流れは、研究大会での講演・シンポジウムの主題や、研究紀要（学会誌）の掲載論文テーマを見ると一目瞭然です。こうした実績を経て、平成８（1996）年には日本学術会議より「教育学」の分野で、学術研究団体（制度変更により現「協力学術研究団体」）としての認定を受けました。会員の多くが学校現場で児童生徒等の教育に携わる団体としての矜持を与えられた出来事でした。

学校カウンセラー認定事業を検討してきた委員会の答申には、次のような熱い文章が綴られています。「学校教育相談は、すべての教師がすべての児童・生徒を対象として、あらゆる場面において行われる教育活動である（略）21 世紀に向けての新しい学校教育相談の創造を目指して、学校内において教育相談を専任できる教師の設置が現在強く望まれています。本学会においては（略）その役割にふさわしい者を認定する必要がある」。

現在、学校カウンセラーの方々は、様々な場面で教育相談の先導的役割を果たしています。このような会員一人一人の地道な活動が幼児児童生徒の笑顔を生み出しています。子供たちの瞳の輝きは、会員を輝かせ、会そのものを輝かせています。決して途絶えさせるわけにはいきません。

日本学校教育相談学会の「志」

会員の退職に伴う退会の増加、教育相談研修の減少や教師の多忙化問題等、要因は様々ですが、本学会の問題の一つは「会員数の減少」です。志を同じくする者同士が集い、支え合い、高め合うことは、児童生徒の健やかな成長を願うすべての団体の共通の「志」と言えます。

平成 21 年（2009）年、同じ「志」をもつ７つの団体が日本スクールカウンセリング推進協議会を結成しました。「子供の学習面・心理面・社会面・進路面・健康面における発達課題への取組を支援する」との設立趣旨は本学会のアイデンティティそのものです。

同協議会の活動計画に、「指導教諭」の職務内容を教育相談・生徒指導（スクールカウンセリング）分野に拡張することと、「相談指導教諭（仮称）」の創設があります。

半世紀前に刊行された「生徒指導の手びき」には、「教育相談を専門に担当する者（いわゆる学校カウンセラーのこと。本書では相談教師と呼ぶ（略））として分化していくことが望ましい」との記述があります。

大きな事件・事故があるとカウンセラーの派遣が重点施策となりますが、阪神・淡路大震災では「心の専門家とされてきたカウンセラーよりも教員たちの果たした役割が大きかった」との報告があります。

「志」実現にはまだまだ幾多の困難が待ち受けています。しかし、次の言葉を大切にすることで、歩みは着実に続きます。先の「生徒指導の手びき」にあります。「相談教師は実践家でなければならない」。

＊「日本スクールカウンセリング推進協議会会報第１号」所収の文章を一部訂正。（文責：小川　正人）

【大分県支部】―支部活動報告―

平成30年度　活動報告

１．支部研修会

①　第１回学習会

・日時　５月12日(土)
13:15～16:00
（ 総会後開催 ）

・場所　大分県大分市
J：COMホルトホール大分　403

・講義「マインドフルネスにセラピーする」
～身体感覚に訊く心理面接～
宇佐病院・大分記念病院　医師　小関　哲郎

②　第２回学習会

・日時　11月24日(土)　10:00～16：30

・場所　大分県大分市
J：COMホルトホール大分　405

・講義「教育相談の基本にたちもどる
～セルフコントロールを視点にして～」
大分大学大学院教育学研究科教職開発専攻
教授　今村　裕（ゆたか）

・事例検討会：２事例

・大分市内の学校「PCAGIP法により実施」

・中津市内の学校「金魚鉢法により実施」

③　第３回学習会

・日時　２月23日(土)　13:00～16:00

・場所　大分県大分市
J：COMホルトホール大分　405

・講義・演習「自分も相手も大切にするコミュニケーション術」
～アサーション・トレーニング～さわやかな自己主張で伝え上手になろう～
株式会社キャリア・コンシェルジェ大分 代表取締役
キャリアコンサルタント　産業カウンセラー
次郎丸　雅子

２．学校教育相談研究会

目的　　学校教育相談について日頃考えていることや研究したこと、実践したことを発表し、自由に意見を出し合って相互の研鑽に資する。

参加資格　会員及び入会を希望するもの

発表者　　年度始めに発表者を公募し、各回２名が発表する。

第１回　８月18日(土)　　13:00～16:30
大分市　西部公民館
「情緒支援学級に在籍する中２Ａ子の不登校について」 佐藤正俊
「適応指導教室に通う中２Ａ女の不登校について」
丸山征一郎、古長直美、スーパーバイザー安達輝久

第２回　10月13日（土）　　13:00～16:30
大分市　西部公民館
「河合隼雄の神話研究に係る一考察」工藤雅道
「発達障害の学生の理解とキャリア支援」萱島佳代子

３．基礎講座

県内教職員を対象に、支部所属の学校カウンセラーが講師になって年２回実施

参加費 ： 各回1,000円　　参加者は各回約30名
会員勧誘のためのよい機会となっている

・第１回　　６月２日(土)
講義　子ども理解から自己肯定感を育む学校カウンセリングのすすめ方
講師　学校カウンセラー・大分県スクールカウンセラー　　佐藤　正俊
実習　「教師の体験」から始める「子ども理解」のための構成的グループエンカウンターの実践
講師　学校カウンセラー・宇佐市立四日市北小学校　教諭　金谷　優子

・第２回　６月23日(土)
児童期のこころの理解～愛着の問題、発達の課題～　講師　学校カウンセラー・大分市立春日町小学校　校長　熊谷　和世
青年期（思春期）のこころの理解と精神疾患
講師 学校カウンセラー・大分県立大分雄城台高等学校 養護教諭
清田　元子

４．　総会・理事会　等

第１回　理事会・事務局会
４月14日（土）　13：30～15：30
大分市　西部公民館
支部総会
５月12日（土）　13：00～13：30
大分市　ホルトホール403

第２回　理事会・事務局会
９月　１日（土）　10：00～12；00
大分市　西部公民館

第３回　理事会・事務局会
12月８日（土）　10：00～12：00
大分市　西部公民館
学校カウンセラー連絡協議会

1月19日（土）　15：00～17：00
大分市　コンパルホール301
第４回　理事会・事務局会
3月16日（土）　13：00～15：00
大分市　大分県立聾学校

５．その他

・第30回　総会・研究大会（東京大会）
大分県からの参加者７名
日時　８月４日 自主シンポジウム
「教育と福祉の接点」
支部役員：野田幸代、吉野昭子、松本紀子、
長谷川多美子の４名で発表
指定討論者:大分大学教育学部准教授 衛藤裕司
・「九州・沖縄地区研修会（北九州大会）：
大分県からの参加者７名　日時 11月17日,18日
・支部HPの更新（随時）
（文責：大分県支部　理事長　佐藤　正俊）

第31回総会・研究大会（宮城大会）を終えて

新元号令和最初の第３１回日本学校教育相談学会総会・研究大会が宮城県仙台市東北福祉大学仙台駅東口キャンパスを会場に令和元年８月９日(金)、10日(土)、11日(日)の３日間にわたり開催しました。今年は例年より暑さが厳しく、参加者の皆様の健康が心配されましたが、２日目より幾分暑さが和らぎ、無事３日間を乗り切ることができました。

大会開催にあたり、宮城支部会員は東日本大震災時、全国の皆様から頂いたご支援ご援助に報いるため、真心を込めて大会の接待にあたることを心掛け取り組んできました。

宮城支部の合言葉は東日本大震災でご支援、ご援助頂いたことに対し「真心こもった接待で感謝の気持ちを伝えること」として運営にあたりました。参加者の皆様に気持ちが伝われば幸いです。

今大会は台風の影響でキャンセルもありましたが、320名の参加を頂き当初予想していた参加数を大幅に超え、宮城大会への関心の高さを感じることができました。

皆様からいただきましたアンケートで、宮城大会について貴重なご意見を頂きました。開催県として真摯に反省し、次回開催県である兵庫支部に引継ぎ、総会・研究実践大会が進化と発展を遂げるよう生かしていきたいと思います。

大会を支えて頂いた皆様に感謝し報告とさせて頂きます。

（文責：宮城大会実行委員長　山下 克郎）

災害被災者支援委員会報告

調査研究委員会と協働してのラウンドテーブルで、災害被災者支援委員会からは、この８年間を振り返り、成果と課題、今後の方向性などについて話題提供を行った。

その後、４つの分科会に分かれて協議したが、私の分科会では何といっても、実際に被災された現地会員のお話に圧倒された。

「自分の家も被災した。同僚、友人なども失い、勤務地から、家に帰れない状況だった。当時のことは、時間が経つと気持ちが軽くなると言われているが、かえって記憶が重くなっている。」

「小学校で被災した。学校も流されたが、裏山に登って助かった。町全体が被災したことを当初は分からなかった。つらいが言えない状況、仮設住居から出られない子ども、愛着の歪みのある子ども、言葉でうまく表現できない子など、＜落ち着きがない＞と一括りにされてしまう。被災との関連がある。単なる愛着ではない。略奪の問題だが、ＴＶでは日本人には略奪がないと美談として報じられているが、実際にはあった。だれでも、物資がほしくてしかたない状況だった。」

「６メートルの津波が来るという予報があったが、実際は20メートルだった。住民の感覚では、地震と津波が連動しない。地震が起きても小さな波しか経験していないので。」

時間が足りず、もっとお聞きしたかったが、次の機会を待つことにしよう。

（文責：災害被災者支援委員会委員長　砥抦 敬三）

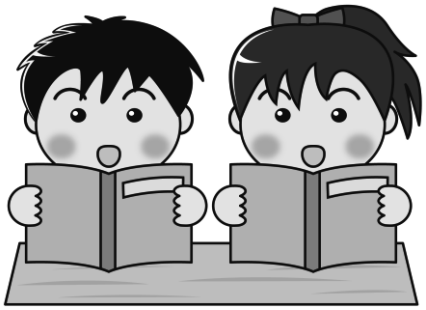
会長コーナー

令和元年８月９～11 日に，宮城県支部の主幹の下、ワークショップと第 31 回総会・研究大会が仙台で開催されました。宮城大会は 2011 年（平成 23 年）８月に開催される予定でした。しかし、同年３月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震により、宮城支部は苦渋の選択として大会の実施を断念されました。それから８年の歳月を経て今回の大会が開催されました。大会のテーマは『信頼と心の響きあいを大切にした学校教育相談 ～東日本大震災を越えて私たちがめざすもの～』でした。大会は，宮城支部の先生方の思いの詰まった、暖かく充実した運営の下、大会テーマの通り、震災に関連したシンポジウムやラウンドテーブル、被災地視察なども行われ、これからの学会の方向性を示唆する大会となりました。また一般社団法人としての記念すべき第一回大会ともなったわけです。

さて，本学会は調査研究・研修・認定・学会誌作成・広報委員会の５つの常設委員会が軸となって活動が展開しています。今大会ではこの５つの委員会のうち４つの委員会で委員長の交代がありました。また，災害被災者支援委員会のもとに全国災害対策委員会が設立され、今後予想される災害に対する体制が大きく整備されました。さらに、本学会は来年度の公益社団法人化を目指していますが、そのための公益法人化委員会も整備されました。

新たな体制のもと，学校教育相談の発展のために取り組んでいきましょう。ご協力をお願いします。

（文責：会長　栗原 慎二）



事務局より

令和元年５月 26 日の法人の社員総会、８月９日の支部代表者会、翌 10 日の学会の総会にて、平成 30 年度事業報告・令和元年度事業計画等が承認されました。新役員の体制で取り組みます。各委員会活動の継続や充実とともに、免許更新講習事業の具体化に向けた準備・会員専用 HP の検討・倫理委員会設立の検討も進めていきます。講師謝金・ブロック研修費補助は申請書が必要となりました。

名誉会員に白井利明（東京都支部）、第 11 回学会賞に小林勉（新潟県支部）、第 13 回小泉英二記念賞に星麻衣（新潟県支部）、以上の方々が推薦・承認・表彰されました。

（文責：事務局長　梅川 康治）

編集後記

本年８月に開催された第 31 回総会・研究大会は宮城県支部の皆様のご努力のお陰で、成功裏に終えることができました。ここに改めて感謝申し上げます。

今後、広報委員会は、本学会の研究大会や各種研修会に関すること、また学校教育相談に関するあらゆる情報を発信していきたいと考えております。会報作成に関するご要望等がありましたら是非お声を寄せてください。どうぞよろしくお願いします。

（文責：広報委員長　山本 健治）

日本学校教育相談学会会報

第６０号

平成３１年１０月２０日発行

発　行　日本学校教育相談学会

会　長　栗原 慎二

編　集　日本学校教育相談学会広報委員会

委員長　山本 健治

事務局　〒１７９－００７３

東京都練馬区田柄３－１１－２８

日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX　０３-３９２６-７３８６

ＨＰ　http://www.jascg.info/